

平成28年度山本地域保健医療福祉協議会及び地域医療推進部会議事録

1 開催日時

平成29年3月15日（水）午後2時00分から午後3時10分まで

2 開催の場所

能代市御指南町1-10 山本地域振興局 3階 大会議室

3 出席委員（敬称略）

齊藤滋宣、佐々木文明、山須田健、高橋貞二、近田龍一郎、石岡隆、島田薫、佐久間雅文、金谷繁夫、船山捷治、森睦子、戸井田裕美、塚本民雄、岩村庄英、佐々木和子、青山勇人、金野尚人

協議会委員17名中13名が出席、地域医療推進部会13名中9名が出席

4 会長等の選出

議長たる会長が選出されるまで、事務局により進行された。

(1) 保健医療福祉協議会の会長及び副会長の選出

会長には委員互選により齊藤滋宣氏が選出され、同氏は就任を承諾した。
会長は副会長として山須田健氏を指名、承諾された。

(2) 地域医療推進部会の部会長及び副部会長の選出

部会長には委員互選により山須田健氏が選出され、同氏は就任を承諾した。
部会長は副会長として佐久間雅文氏を指名、承諾した。

5 議事

会長が議長席に着き、議事に入った。

(1) 救急・災害医療検討部会からの報告

事務局からの報告に対し、質疑等はなし。

(2) 献血推進部会からの報告

事務局からの報告に対し、質疑等なし。

(3) H28山本福祉環境部主要事業について

事務局からの報告に対しする質疑等として次の発言があった。

(山須田委員)

資料1ページ目に保健所で把握している精神障害者数とあるが、把握しているというのはどのような意味であるか。

(事務局)

保健所で把握しているというのは、精神障害者手帳や自立支援医療の交付申請者にかかる件数及び医療保護入院の件数という意味である。自立支援医療の交付申請を行わず、自費で受診されている方については把握できていないため、このような表現を用いているところである。

- (4) その他
事務局ほか特になし。

(永井福祉環境部長)

最後に全体を通して私から、お礼や今後の御協力について発言したい。

まず、資料1の救急災害医療については、災害医療コーディネーターを中心とした関係機関の事前の準備と連携等が非常に重要となるので、今後も部会の検討に御協力をお願いしたい。資料3の自殺予防についても、日頃から関係機関の皆様からの多大な御協力に対し感謝申し上げる。また、院内感染対策についても非常に重要な事項であるので、引続き格段の御協力をお願いしたい。

(佐久間委員)

EMISのシステムについては医療関係者にとって素晴らしいことは理解できる。しかし、被災者にとってどこの医療機関を選べば良いのかといったことについて良い方法はあるのか。

(永井福祉環境部長)

災害時にどこのベッドがどれだけ空いているとか、どこで救急外来をやっているといった情報が把握できるという点で、このシステムは有用ではある。しかし、実際に患者さんを誘導するところまではこのEMISだけではカバーできる状態となっていない。

それでも、医療側がこのような情報を把握した上で、患者さんが過大となってしまった救護所等にうまく医師や看護師等の医療資源を提供する事への手段として活用するには、このEMISのシステムは有効であるため、今後の訓練等への御協力をお願いしたい。

(近田委員)

救急・災害医療に際しては、災害の規模や急性期等の状況に応じて使い分けの必要がある。例えば町の病院が津波にあった場合などは、文化会館等に医療センター等を作ることとなっている。その際は県が主導でDMATの人が集まって救急対応し、能代厚生医療センターが被災していない場合は、能代厚生医療センターを拠点とすることと認識している。その後落ち着いてきてから、災害コーディネーターやJMATが動き出すこととして、被災情報は能代厚生医療センターに集まることとなっているので、このEMISのシステムの説明と相違があるのではないか。

(永井福祉環境部長)

能代厚生医療センターは災害拠点病院として、救急患者さんを受入れていただくことになっているのはそのとおりである。ただ、大規模災害時は、市町村により避難所や救護所が設置されることとなっており、住民が大勢訪れることが想定される。このような事態に際し、EMISのシステムが限られた医療資源を効率よく提供するための有効な手段であることを御理解いただきたい。

その他質疑等なく閉会